

令和 6 年 度

事業活動報告書

社会福祉法人 グラン・ヘリオス会

令和 6 年度 事業報告

令和 6 年度 施設目標

「地域福祉の拠点となり思いやりの心で笑顔の暮らしに繋がります」

令和 6 年度は、感染症対策とともに「日常を取り戻す」ための取り組みが進展した一年でした。地域行事や施設内イベントにも積極的に取り組み、ご利用者様とご家族・地域の皆様との交流機会も増え、改めて「つながりの大切さ」を実感いたしました。

また、施設環境の整備として、埼玉県助成金を活用した従来型施設におけるプライバシー保護におけるパーテーション設置を行い、より安心・快適な生活空間づくりに努めました。築年数を重ねる中での修繕計画の策定にも着手し、将来を見据えた取り組みを進めています。

引き続き、介護を取り巻く環境変化にもしっかりと対応し、生産性の向上への意識を持ち、より質の高いサービスを提供できるよう努力して参ります。

【特養部門】

- ・ 7/16 に埼玉県福祉監査課における実地指導
- ・ 感染症に対し BCP 計画に沿った対応並びに初動体制の確立を行った
- ・ 面会やイベント等の規制緩和を行い対面式での面会を実施
- ・ 腰痛対策、事故防止の観点で移動式リフトの勉強会の実施
- ・ オムツ排泄ゼロの取り組みとして、トイレでの排泄誘導
一人一人に適した排泄用品の選択することでコスト削減に繋がっている
- ・ 喀痰吸引研修に 5 名受講 資格を取得する

稼働率

- ・ 従来型 96.8% 50.3 名 (前年度 97.3% 50.6 名)
- ・ ユニット型 95.5% 45.9 名 (前年度 94.7% 45.4 名)
- ・ 退所者数 本館 14 名 新館 17 名 合計 31 名 (前年度 本館 24 名、新館 17 名 合計 41 名)
退所者のうち 22 名がターミナルケア、9 名は急変等により医療機関へ入院等
- ・ タイムラグ 本館 10 日 (前年度 10 日) 新館 21 日 (前年度 14 日)

施設のイベント

規制緩和により外出機会や集合形式でのイベントを増やすことが出来た

○外出イベント

(ラベンダー見学・羽生水族館見学・川里フェスティバル・初詣・びっくりひな祭り見学等)

○集合形式でのイベント

(敬老会・オリンピックを見ながらビアガーデン・川里祭・もちつき大会・いちご狩り等)

【在宅部門】

- ・地域包括・居宅・デイサービス・ショートステイとの月 1 回定例の在宅部門会議の実施
- ・デイサービスの利用が 1 日平均 24.3 名 70.8%（前年度 19.9 名 稼働率 57%）
- ・ショートステイ利用が 1 日平均 7.5 名 93.5%（前年度 6.9 名 稼働率 87.2%）

【法人部門】

- ・理事会の開催 全 4 回（5/28、10/29、1/21、3/18）

128 回 5 月 28 日

議案事項：1 号 事業報告・決算、2 号 評議員会開催

報告事項：処遇加算金支給実績、借入金償還実績

129 回 10 月 29 日

検討事項：法人運営について

運営状況、従来型多床室プライバシー化整備事業に向けて、実地指導報告、電気契約更新

130 回 1 月 21 日

議案事項：1 号 第 1 次補正予算、2 号 従来型多床室プライバシー化整備入札、3 号 定年年齢改訂

131 回 3 月 18 日

議案事項：1 号 次年度予算案、2 号 就業規則・給与規程・育児介護休業規程改訂、

3 号 評議員候補選任 4 号 評議員選任解任委員選任、5 号 役員等賠償責任保険契約

- ・評議員会の開催 全 1 回（6/21）

69 回 6 月 21 日

議案事項：1 号 事業報告・決算

- ・定年を 65 歳に引き上げ、非常勤職員の定年を撤廃する
- ・生産性向上委員会の設置
- ・SNS、ホームページ等での情報発信
- ・法人間連携による情報発信並びに情報共有（研修・ホームページ・求人・入居申し込み等）

苑内設備更新

- ・従来型多床室パーテーション工事
- ・従来型多床室壁紙・床材・トイレ・洗面所のリニューアル工事
- ・キュービクル高圧真空遮断器交換工事

【人材育成・人材確保】

- ・苑内での研修会を 39 回行い、延べ 521 名が参加
- ・第 17 回事例報告会では、8 部署が発表し 32 名参加
- ・ユニットリーダー研修 1 名受講する
- ・埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校から介護福祉士科 2 名の実習生受入れ
幸手看護専門学校から保健学科 2 名の実習生受入れ
- ・職員 8 名（ソーシャルワーカー）を 1 年通して研修を実施（マネジメント・チーム力向上等）

令和6年度 委員会・会議評価

委員会	委員長	評価
広報委員会	程原	・広報誌 … 作成担当者を中心に苑の行事や様子などを掲載し、年4回発行できた 最終号に向けて75号ではページを増やして発行できた ・ホームページ … 特養とデイの活動の様子を毎月新着情報として掲載できた ・インスタグラム … 委員を中心に随時投稿を継続し、フォロワー数も順調に増加し、見てくれている家族も増え、情報発信の役割の一つとして定着し始めた
イベント委員会	進藤	一年間コロナ等で中止になることもなく、無事に行事を終えた 来年度は新しい行事にもチャレンジしていき、またご家族様も参加できるように進めていきたい
給食委員会	荻野	会議で栄養課職員が各部署と連絡交換を行うことができ、伝達ミスを減らせた また、食事への意見を直接話してもらうことが、問題の早期解決へつなげられているため次年度も継続していきたい
衛生委員会	岡村直	健康診断について、法で定められている職員の回数並びに入居者についても年度末までに計画的に実施できた 予防接種においても、病院との調整のうえ、希望する入居者及び職員へ滞りなく接種を行うことができた。 面会において更なる緩和策を検討し、新館においては居室内での面会の実施や時間・人数の見直し、日曜日の実施の他外出についても一定の制限のうえ、ご家族にもご理解ご協力を頂きながら希望により都度実施している 今年度も各フロア工夫を凝らし長寿新聞等によりご家族への情報発信に励んでいた。 福祉用具について定期的に保有台数や必要台数の確認・共有を行い、予算の範囲内で優先度の高い物の購入を行った 感染予防具着脱訓練や嘔吐物処理勉強会を定期的に実施し、実践を交えながら万一来臨に備えることが出来た。 BCP計画について、敵的な見直しや計画に基づく実地訓練について計画的に実施出来ていたが、次年度以降は更に具体的に分かりやすい内容となるよう都度見直しをかけ、川里苑に適したものになるよう実地訓練も含め取り組んでいきたい。
生産性向上委員会	岡村直	まずは生産性向上における意味や介護現場にどのように当てはめていくかについて、様々な情報を収集しながら職員への周知から始めた 具体的に何をどうしていくかまでは至らず、職員の理解をあまり得ることが出来ず、今後の課題となる 次年度は現場での業務内容を洗い出すところから始め、最終的に介護職員の負担軽減や介護ケアの質の向上に繋がることのできるよう協力し合って委員会を進めていきたい
防災委員会	藤田	今年度も防災訓練2回/年、及び水害訓練1回/年を実施することが出来た 地震発生から火災想定での訓練を行い、地震・火災発生時の初期動作の理解と危険意識の向上ができた また、BCP 研修を受け簡易訓練のやり方を学び、委員会の際メンバーにも簡易訓練を共有できより災害意識の向上ができた 今後も災害の対応策に意識を向けていきたい
感染症対策 医療的ケア委員会	中田	コロナの重症化はなかったが、1月にかなりの人数のコロナ患者が出てしまった。 軽症であったが、老衰でターミナル期であった利用者が亡くなったのが残念であった。 ノロウイルス対策である嘔吐物処理の初期対応の講義が参加した職員からとても評価が高く、毎年定期的に実施し職員への周知を徹底していきたい。
入所判定委員会	島田	今年度、特例での入所者は3名。 判定会議において「やむを得ず事由」に該当するかをきちんと審議し、市にも報告相談をしたうえで適切に入所として進められることができた。 待機者が夏以降より、グッと減っており経営的には厳しい状況であるが反面、近況については確認できている。 参加しているメンバーにも広く意見を求められるように委員会を進行していきたい。
苦情処理委員会	島田	苦情件数は少なく、解決が長引くケースは無かった。 今年度より面会方法が新館は居室で行ったり、本館についても日曜日可能になるなど入居者様御家族と現場との接する機会が増えた。 適時の情報共有が図れているのではないかと考える。 また昨年はデイサービスにおいて送迎時間の誤差による苦情があがっていたが今年度は無く改善が図れていると思われる。
身体拘束廃止委員会	高山	今年度身体拘束は1件のみであった。 安全に過ごしていただきたく、拘束が必要かも…と思った時も臨時委員会を開き、話し合いをスムーズに行うことが出来ていた。
排泄委員会	金井	清拭使用枚数、パット代を毎回前年度分と比較して伝達した。 職員の意識も変わり前年度削減することができた。 オムツ介助・トイレ介助での困難事例を職員間で共有し、改善案について検討することができた。
リーダー会議	古市	各部署での課題の検討を、事前課題として周知することで共有し、困難事例等の話し合い等、時間内に意見調整することができた。 また改善策をフロア、ユニットに周知することで、他部署の現状理解と協力体制が築けた。 目標とする各部署での見直しと、利用者のQOLを高めるケアに繋げる事ができた。
虐待防止・ 接遇委員会	高山	不適切な対応と気付きの報告について各部署で話し合い、改善に向けて対応できていた。 ハラスメントや虐待についても色々対策を検討し、対応していると報告があげられていた。
研修・ 教育委員会	野本和	キャリアパス要件に応じた外部研修への参加と、施設内での相談員研修、埼玉県社会福祉協議会主催の研修参加等により、職員の知識向上に繋げることができた。 苑内研修全39回、350名以上の参加の他、事例報告会も第17回目となり、職員の日頃からのケアへの想いを感じられる良い発表となった。
事故防止 対策委員会	小野閑	防ぐべき事故でもある誤薬が前期14件、後期15件、合計29件と令和5年度よりも3件増えてしまった。 まったく同じ原因で続いてしまった誤薬もあり、繰り返さないためにすぐに対策を検討し実施することができ、そのことから誤薬事故を防いでいきたい。 介護骨折からご家族様とのトラブルにも発展してしまった事故もあり、入居者様の身体状況についてもご家族とも情報共有し、トラブル防止にも繋げていきたい。
川里祭 実行委員会	進藤	今回は初の試みとして職員によるバンド演奏を行った。 演奏自体はまだまだ練習不足を感じたが、踊りを含めとても良く頑張ってくれた。 ベトナム舞踊では少しアクシデント(音が出ない)がありま、来年度に期待。 よさこいソーランも大変盛り上がった。 来年度はもっと練習してバンドの精度を上げ、入居者様に喜んでもらえるよう頑張っていきたい。
四半期会議	牧	各部署管理者・リーダー等が一堂に会し、年4回3か月ごとの各部署における実績や実施内容等の報告会を行った。 荻野業務執行理事にもご出席・ご意見を頂きながら、前年度との比較の中で見いだされた課題や現状の分析を各部署における管理者レベルの職員が共通認識し、他部署の成功事例や悩み等を共有できた。 今後も連携しながら法人の運営をより良くしていきたい。
経営会議	牧	毎月の営業月報により前月の稼働率等を振り返り、実績分析、各部門の課題やアピールポイント等の情報共有が経営状況等の理解・把握ができた。 今後も法人全体で協力・連携しながら健全な運営を行っていきたい。

令和6年度 各部署の評価

部 署 名	目 標
本館2階	笑顔が増えるチームケアができるよう行事を見直し入居者様からの要望を聞き入れた行事ができ、ほっこりわくわく感が見られた。 7名の方の看取りを行った。 他職種と連携することも出来ていたので次年度も生かしていきたい。
本館3階	コロナも落ち着き、いろいろな行事の計画も出来て、楽しむことができた。 16人の職員がいるフロアとなり、業務の情報共有など難しいこともあったが、協力してやることが出来た。 看取りなど、その人に降り添うことができていた。
新館1階	後期より、入居者様の状態変化が多くあった。 そのため、個別状況の再確認、ケアの再検討、見直しが常に必須となり、関わり方にも考える必要が多くあった。 入退院を繰り返す方もあり、状態の観察、変化への気付きをしっかりとできるよう心掛け、フロア職員全員で情報共有を密に行った。 3月下旬の方で丁寧な支援を意識していたにも関わらず、骨折者を出してしまったのが残念であり、ケアの仕方の見直し等、もっと詰めた話し合いがとても重要だと感じた。
新館2階	①精神的に不安定な入居者の方など、職員の状況によって不穏になり、介護拒否などもあって、やさしい態度ができていたか？ 見えない部分もあり、統一できているか分からないので、ケアのあり方を見直しお互いに負担にならないように考え、支援の変更していきたい。 ただ目標は介護の基本とする事もあり、次年度にも続けていきたい。 ②「報連相」ができていないと、各スタッフからも評価あり、情報の共有からケアの統一に繋げていけるよう、次年度にも目標として行きたい。
新館3階	入居者様の声に耳を傾ける、立ち止まり会話する等、出来ていたと思う。 今回の事が継続して行けるようにしていきたい。 入居者様の入れ替わりが多くあり、24Hシートの更新、情報の共有化をしっかりと行って行く必要があった。 面会の機会が増え、ご家族様と会うことが増えた。 コミュニケーションをしっかりと行って行くよう新3職員で共有している。
新館4階	・入居者様の気持ちの寄り添うケアを意識して行動するよう心掛けていたが、職員間のバラつきがあっように思う。 ①申し送りやケース記録やワーカー会議を活用して情報共有を図ったが伝わっていないことがあり、報連相を徹底してチームで共有することは引き続き課題だと考えている。 ②希望を取り入れた行事は1度だけだが、季節に応じた行事や飾りつけを行うことができ、楽しんでいただけたと思う。
デイサービス	今年度は一年を通し稼働率について前年度を大きく上回っている状態が維持できている。 他事業所へのデイサービス見学のチャシ・デイのパフレットを配布・営業を行い、近隣の地区にポスティングの他インスタ活動等のSNSを有効に活用した。 デイサービスの行事も外出行事を増やし、ご家族様やケアマネジャーを呼んで発表会ができ、双方とても喜ばれていた。 次年度も稼働率の安定と利用者に寄り添えるケアと楽しめる行事の提供をしていきたい。
事務	7月にご家族面会方法の見直しを行い、ユニット型は居室対応での面会も始まり問題なく実施できている。 今後の面会についてもコロナ前の面会方法を視野に入れた上で検討・対応していきたい。 助成金については、キャリアアップ助成金(介護職員正社員化)、人材開発支援助成金(喀痰吸引研修費用2名)の申請も滞りなく行えた。 埼玉県が実施する補助金事業を活用し、従来型多床室(4人部屋)間仕切り工事を実施した。 老朽化していた多床室であったが、工事を行ったことで施設のイメージアップに繋げることができた。 今後に向けて、老朽化に伴う建物修繕への備えも視野に入れながら引き続き健全な運営に努めていきたい。
看護	今年度は相変わずの人員不足により、夜間対応の件にあたって対応に不安を覚えることもあり、早急に人員の確保の必要性を感じた。 しかしながらコロナ禍も落ち着きはじめ、クラスターが発生しても以前のように緊張を強いられるばかりではなく経験値を生かしてスムーズに対応することも出来たことには一定の評価に値すると思う。
栄養	季節ごとの行事食は定期的実施できた。 食事委託業者の食材納入内容が大きく変更されたため、選択メニューや選択おやつの実施を中止することになった。 中止により「食事内容が寂しい」と不満数が多くならないよう人気メニューの回数を増やし食事への不満が増えることなく提供できたように思う。 食材高騰が続いているが、食事への楽しさを維持して頂けるよう次年度も改善していきたい。
生活相談員	平均稼働率： 本館 96.7% 新館 95.5% 平均タイムラグ： 本館 10.8日 新館 21.1日 入退所の入れ替わりのペースが速く準備不足となる。 待機者が依然増えない状況にある。 すぐに入所する方が決まらない際は、ショートステイで活用し施設全体の稼働率を意識した活動が出来たと考える。 相談員が不在の際でも施設ケアマネのほうで対応できることは依頼するなど業務の効率化も出来たのではないかとと思う。 事務的な面では多職種と協同して行うことが準備不足など、つい後回しになり出来なかったのが反省材料である。
居宅	地元からの相談だけでなく、市内中心部からの相談も見られた。 家族の形体として介護者が配偶者ではなく当事者の子供というケースが増えてきていることが感じられた。 デイサービス、ショートステイもコンスタントに利用希望に対応している。 デイサービスは男性比率の増加ショートステイは特養入所へのステップとしての利用が増加したと感じた。 4月から体制が変わるが、これからも地域とのつながりを大切にし利用者ニーズに迅速に対応できるよう研鑽していきたい。
介護支援専門員	①利用者様の有する能力を維持できるよう担当部署とカンファレンス行い、ケアプランに繁栄することができた。また、電話での聞き取りや面会で来苑された時には声をかけ、本人とご家族様の意向をすり合わせる事ができた。 ②関係職員と連携を図り、入居者様の好みや得意に合わせた余暇活動を充実するための話し合いやクラブ活動参加を支援することができた。 より充実した日々を送っていただくためにも来年度も余暇活動の充実を図りたい。 ③計画書作成や送付に遅れが出る事が多くなってしまった。 緊急性の高い場合はもちろん、状況変化の時にもご家族様と連絡を取り合い、各フロアとの話し合いや面会に来ていただくように促すなどアクションをとることができたと思う。 他部署との連携を図ることでご家族と職員との信頼関係にもつなげることができたと思う。 来年度も継続してより良いケアを提供できるようカンファレンスをもとにケアプラン作成に取り組んでいきたい。
地域包括	予定通り実施。 令和6年6月ケアマネ入職。 主任ケアマネ研修終了。 令和7年3月退職者有り。 次年度は予定されている人員を満たさずのスタートとなるが、引き続き職員募集を行っていく。 また次年度は業務の見直しを中心に実施していきたい。